

留学生活での学び

私は神戸大学からの交換留学生として、10 ヶ月間ベルギーのブリュッセル自由大学(社会科学部)に派遣されました。そこでは、特に移民や LGBTQ+などのマイノリティに対する差別や政策、ベルギーの連邦制度を中心に学びました。実際に EU 機関で政策に関与していた教授や運動家の方の講義を受ける機会もあり、多くの学びを得ることができました。今回は、普段あまり注目されることのないベルギーという国での留学生活について述べたいと思います。

ベルギーは東京都の 8 割程度の人口、九州より若干小さい国土を持つ小国です。しかし、政治においては大きな存在感を持っています。大国フランスとドイツに挟まれている立地や歴史的要因から、ブリュッセルには EU と NATO の本部があり、「EU の首都」とも呼ばれています。

そんなベルギーでの生活で気づいた事は、「違いを認め合うことは素晴らしい」という事です。ベルギーは「多様性」という言葉がぴったりな国です。私の友人を見ても、国籍や育った場所、言語はバラバラであり、価値観や生活スタイルも大きく異なります。しかし、人と違うからマイナス評価を受けることは全くなく、むしろ違いを理解しプラスに変えられる環境でした。統一された物差しやラベルで見るのではなく、その人自身と話をし、理解しようとする。これは、日本で生まれ育った私にとってとても新鮮な経験でした。この多様性を認める姿勢は、少子高齢化に伴い外国人労働者が増加する日本の将来にとって非常に重要だと考えています。日本人の素敵な国民性や伝統文化を守りながら、新しい価値観を取り入れられれば、日本はより良い国になると思います。この留学生活での学びを活かし、残りの学生生活や社会人生活において、地元である香川県と日本に貢献して参ります。

今回、欧州への留学を実現できたのは、多田野奨学会の皆様のお力添えがあってこそです。未筆ながら、重ねて御礼を申し上げますと共に、多田野奨学会の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。